

大学生訪韓団 派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】日本全国から選抜された大学生たちを韓国に派遣し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」への参加等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】日本の大学生等 30 名

【訪問地】ソウル特別市、京畿道高陽市・坡州市、江原特別自治道春川市

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

9 月 7 日（土曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、講義、韓国大学生訪日団との交流

■ 派遣プログラム：

9 月 20 日（金曜日）仁川国際空港より入国

9 月 21 日（土曜日）オリエンテーション、【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備及びフィールドワーク

9 月 22 日（日曜日）【交流】「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」参加

9 月 23 日（月曜日）【表敬】韓国外交部、【表敬】在大韓民国日本国大使館公報文化院

【大学訪問・講義】ソウル大学校日本研究所

【交流】ソウル大学校キャンパスツアー及び学生交流

9 月 24 日（火曜日）【視察】烏頭山統一展望台、現代モータースタジオ高陽

【視察】ソウル歴史博物館、慶熙宮、【交流】ホームステイ

9 月 25 日（水曜日）ホームステイから再集合、江原特別自治道春川市へ移動

9 月 26 日（木曜日）【視察】コモンズフィールド春川、【視察】南怡島、ソウル特別市へ移動

9 月 27 日（金曜日）【視察】戦争記念館、【視察】聖水洞、ソウルの森

成果報告会（訪韓成果・帰国後の活動計画発表）

9 月 28 日（土曜日）仁川国際空港より出国

2. 記録写真

	
2024 年 9 月 21 日【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト	2024 年 9 月 22 日【交流】「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」
	
2024 年 9 月 23 日【表敬】韓国外交部	2024 年 9 月 23 日【大学訪問・交流】ソウル大学校キャンパスツアー及び学生交流
	
2024 年 9 月 24 日【視察】烏頭山統一展望台	2024 年 9 月 24 日【交流】ホームステイ
	
2024 年 9 月 26 日【視察】コモンズフィールド春川	2024 年 9 月 27 日【視察】戦争記念館

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

南北間の「離散家族」の存在は烏頭山展望台を訪れて写真や資料を見るまでは聞いたことがなかった。今回の訪問を機に、そのように離れ離れになってしまった家族がいることを知り、韓国と北朝鮮の問題、そして日本と韓国の歴史についても学び直したいと思うきっかけになった。

◆ 日本 大学生

戦争記念館での解説者の方の言葉がとても印象に残っている。「今、私たちがこうして平和に暮らすことができているのは昔の人々が命を犠牲にしてまで国を守ってくれたから。だから今を生きる私たちが未来の世代のためにできることは、歴史を忘れず、今の平和を続けていくこと。そのまず一歩として、日韓だけでなく東アジアの国々の友好関係を保ち続けることが必要だ」。この言葉を聞いた時、今回私たちが訪韓団として訪韓した意味が改めて明確になった気がした。日韓両国の関係を良くしていくことが、最終的に世界平和に繋がるということを、記念館での歴史資料や写真を通して学ぶことで再確認することができた。

◆ 日本 大学生

コモンズフィールド春川は、地方創生に関心がある私にとって最も印象に残った訪問先の一つである。少子高齢化や地域消滅など多くの共通した社会課題を抱えている日韓両国は、お互いに教え合って学び合い、様々な分野で協力する必要があると改めて強く感じた訪問だった。両国の課題解決のための協力は至上命題であり、そのための必須の課題である協力は未だに消えることのない反韓、反日感情を良い方向に導く鍵になるのではないかと感じた。

◆ 日本 大学生

大学生訪日団やソウル大学の学生等、同年代の方々との交流は、これからの日韓関係を私たちが担うのだと思わせてくれる機会でもあったし、「日韓交流」としてだけでなく一個人として一緒に過ごす時間が本当に楽しく、国も言語も関係なく良い関係を築いていくことができると感じた機会でもあった。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 韓国側受け入れ機関担当者

8泊9日間、日本の大学生が韓国のさまざまな姿に現地で接することによって、韓国について正しく認識し、理解できるようなプログラムを企画した。今回の訪韓プログラムは、両国の青少年交流が未来の日韓関係構築の礎であることを改めて感じさせてくれる経験となった。

◆ 韓国側交流相手 学生

同年代の日本の友達と交流し、日本や韓国の文化について共有することによって、とても充実した時間を過ごすことができた。お互いの文化について、より一層知ることができたため、今後も継続して交流していくことができればと思った。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 【2024年大東大学生協編 9月18日投稿】 今日はソウルのCOEXで開催された「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」でブース運営をしました！私たちのブース運営のテーマは「被災者の知恵」です。韓国では身近ではない災害について韓国の来場の皆さんに知っていただこうと7月から準備して臨みました。本番ではたくさんの方が私たちのブースを訪れてくれて、韓国の皆さんに災害のことを十分お伝えできたと思います。	 【2024年大東大学生協編 9月24日投稿】 離散家族のことやリアルな北朝鮮の姿を実際に見て感じる事ができました。離散家族の苦しみは計り知れないものだと感じ、その歴史を私たちのような日本人の若者も学んでいかなければならないと思いました。
2024年9月22日（Instagram） 今日はソウルのCOEXで開催された「日韓交流おまつり 2024 in Seoul」でブース運営をしました！私たちのブース運営のテーマは「被災者の知恵」です。韓国では身近ではない災害について韓国の来場の皆さんに知っていただこうと7月から準備して臨みました。本番ではたくさんの方が私たちのブースを訪れてくれて、韓国の皆さんに災害のことを十分お伝えできたと思います。	2024年9月24日（Instagram） 離散家族のことやリアルな北朝鮮の姿を実際に見て感じる事ができました。離散家族の苦しみは計り知れないものだと感じ、その歴史を私たちのような日本人の若者も学んでいかなければならないと思いました。
 【2024年大東大学生協編 9月25日投稿】 福島の最近、近隣の国からのイメージがあまりよくないため、「福島のお土産」を渡すのは少し緊張したけれど、逆に福島は安全なのか？風評被害で困っていないか？等、質問をしてくれて、現状を知ろうとしてくれる人が韓国にいるということを身をもって感じる事ができました。	 【2024年大東大学生協編 9月26日投稿】 コモンズフィールド春川を訪問し、地方都市に変化をもたらす活動について学習しました。ここは青年をはじめとした市民が協力して、気候や食料などの諸問題の解決を目的として運営がされています。担当者のお話で印象に残っていることは、施設の皆さんが諸問題の解決だけを目指しているのではなく、町のアイデンティティを生かしたまちづくりを心掛けているということです。環境問題を考えると同時に地方都市の活性化がどのように行われているかを知ることができました。
2024年9月25日（Instagram） 福島は最近、近隣の国からのイメージがあまりよくないため、「福島のお土産」を渡すのは少し緊張したけれど、逆に福島は安全なのか？風評被害で困っていないか？等、質問をしてくれて、現状を知ろうとしてくれる人が韓国にいるということを身をもって感じる事ができました。	2024年9月26日（Instagram） コモンズフィールド春川を訪問し、地方都市に変化をもたらす活動について学習しました。ここは青年をはじめとした市民が協力して、気候や食料などの諸問題の解決を目的として運営がされています。担当者のお話で印象に残っていることは、施設の皆さんが諸問題の解決だけを目指しているのではなく、町のアイデンティティを生かしたまちづくりを心掛けているということです。環境問題を考えると同時に地方都市の活性化がどのように行われているかを知ることができました。

朝鮮日報 있다/김동현 기자 일본 도쿄외국어대를 다니는 카와이 아이미(22)씨는 이날 한국 외교부, 일본 외무성이 공동 주최하는 일한 대학생 교류 대표단 소속으로 한일축제한마당을 찾았습니다. 부스엔 일본에 가는 한국인 여행객들을 위해 지진 등 재해 발생 시 사용할 수 있는 일본어 표현들을 배우는 자리를 마련했는데요. 카와이씨는 이날 “어린 시절 일본과 한국은 먼 나라라고만 생각했지만, 최근 미국에 교환 유학을 갔다가 한국인 친구들을 만나 서로 의지하고 친해지면서 (한국에 대한) 감정도 달라졌다”며 “이름 계기로 일본에 돌아와 한국어를 배우고 있다”고 했습니다. 한일축제 한마당을 찾은 소감을 물으니, “일한관계라는 것이 내 생각보다 훨씬 긴밀하고 다양하게 맺어져 있어 놀랐다. 맞은편에 내 출신지인 아이치현TV에서 설치한 부스가 있어 놀랐는데, 알고 보니 아이치현 지역인 나고야와 한국 부산이 함께 제작한 드라마를 기념하는 것이었다”는 답이 돌아왔습니다.	한일, 53차 대학생 교류사업 진행...日 대학생 30명 방문 한일대학생교류 사업 지원 상주 방문...한국 학생들은 11월 방문 한일대학생교류 사업 지원 상주 방문...한국 학생들은 11월 방문  일본 대표단 대표가 한일 학생 (왼쪽부터)
2024 年 9 月 28 日 (朝鮮日報 WEB 版) 日韓交流おまつり in Seoul での団員インタビュー掲載 小さい頃は日本と韓国は遠い国と思っていたが、最近アメリカへ交換留学に行き、韓国人の友達と出会って親しくなったことによって韓国に対する思いも特別なものになった。これをきっかけに日本に帰国してから韓国語を勉強している。	2024 年 9 月 30 日 (ニュース 1WEB 版) 日韓、53 次大学生交流実施…日本の大学生 30 名訪韓 外交部の関係者は「今後も実りのある日韓大学生事業を継続し、両国の未来世代間のコミュニケーションを強化して相手国への理解を高めることにより日韓関係が安定的で未来志向的に発展することに寄与する」と述べた。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (概要または抜粋を記載する)

 1. 訪韓中に学んだこと・感じたこと 2. アクションプラン(情報発信系) 3. アクションプラン(個人の活動系)	 1. 訪韓中に学んだこと・感じたこと 2. アクションプラン
【成果の発表】 ・メディアを通じて得ていた韓国の印象と現地で直接の体験を通して知った韓国の事実に大きな乖離があった。報道や SNS などでは日韓関係について否定的な記事やコメントを見ることが多かったのが、9 日間で出会った何十人、何百人の韓国の皆さん全員が親切に接してくれたことが非常に印象に残っている。 ・日本と韓国は外交的に見ても深い関わりがあることを実感した。外交部での講義では、日韓の首脳が頻繁に行き来をする「シャトル外交」や訪韓外国人に占める日本人の割合が 1 位、訪日外国人	【成果の発表】 ・朝鮮戦争は日本の教科書では一行で済まされてしまうが、今回の訪韓では戦争勃発の背景や離散家族のこと、また同じ民族間の戦争であるが故の葛藤など、非常に複雑な戦争であったことが分かった。同じ「戦争」ではあるが、日本が経験してきた戦争とは大きく異なっていた。机上での学習だけでなく、実際に現地に赴いて学ぶことの重要性を感じた。 ・地理的に近いこともあり、食文化や言葉など共通点がたくさんあることが分かった。一方で相違点としては、儒学の影響や敬意の表し方の違い、

に占める韓国人の割合が１位ということを知った。実際、ソウル中心部には多くの日本人観光客がいて、韓国に興味を持つ日本人が多いことを再確認できた。 【アクション・プラン】 ・ 駐広島大韓民国総領事館を表敬訪問して、今回の訪韓活動を総領事に報告する。 ・ 表敬訪問の様子を大学の外国語教育研究センターの HP または X に掲載する。 ・ 訪韓活動について大学の授業で発表する。 ・ TOPIK やハングル検定を受検し、韓国語学習に繋げる。また、韓国に短期留学をする。	家屋の構造の違い、設備の違い、国民性の違いを感じることができた。初の渡韓だったこともあり、文化の違いは聞いたことはあったが実際に肌で感じるのは初めてで印象に残った。 【アクション・プラン】 ・ Instagram や note で発信する。 ・ 所属校の国際課と相談し、ポータルネットサービス等を通して、訪韓団での経験を学内でも広める ・ 「韓国語を話すことができればもっと楽しむことができたかもしれない」と感じる場面がたくさんあったため、オンライン韓国語レッスンを通して韓国語の学習を続ける。
--	---

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金